

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4092800020
法人名	有限会社 希望の郷
事業所名	希望の郷なかま
所在地 (電話番号)	福岡県中間市朝霧3丁目10番15号 (電話) 093-243-7600

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 3月 12日	評価確定日	平成 21年 4月 28日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤5人, 非常勤5人, 常勤換算5.2人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	造り
	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(60,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成 21年 2月 16日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.3 歳	最低 68 歳	最高 88 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩尾内科医院、まちだ歯科医院、遠賀中間医師会おかがき医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者(管理者)の“長年住み慣れた地域で暮らすことを大切にしていきたい”との考えから、昨年5月に開設されたばかりのホームである。運営理念である『利用者1人1人を個人として尊重し、地域に溶け込み、その人らしく支援します』を実践するために、全職員が、ご利用者を尊重し、心通わせるケアに努めている。車椅子や歩行器の利用にも配慮された広い共有空間の脇には、畳敷きの和室を設けており、ご利用者が1人になり、思い思いにくつろげる場所となっている。開設当初から地区の自治会にも加入しており、ホームについて地域の方々を知っていただきたいと、『認知症サポート養成講座』の開催場所とする等の取り組みを続け、ホームの周知が徐々にすすみ、地域の方々が、散歩の途中に寄って下さり、お茶をご一緒していただけることもある。外出したご利用者が道の途中で動けなくなっているところを、地域の方がホームまで背負ってきていただいたこともあり、地域の方々の理解や協力のありがたみを実感している。今後は、“地域のために何かできることがあればお力になりたい”と管理者は話している。開設間もないホームであるが、地域密着型サービスとしての役割がますます期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者から職員に対して、『今後よりよいケアに活かしていくための目安として』等、自己評価や外部評価を行う目的を説明し、職員で分担しながら自己評価票を記入してもらったあと、全員で話し合い、1つにまとめた。今回、初めての自己評価を行ったが、各職員が積極的に意見を出し合うことができた。日頃から管理者や主任が指導している内容が全職員に伝わっていることを実感することができた。
②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ご利用者、ご家族、民生委員、地域包括支援センターの職員の方や市の介護保険課の担当者の方等に参加していただき、2か月に1回定期的に開催している。ご利用者からもご意見をいただき、参加者の方々からは、ボランティアの紹介、地域行事の案内、災害時の必要な備蓄品を教えてください等のごさまざまなご意見をいただき、対応できることから取り組みを行っている。また、ホーム行事や運営に関する報告も行い、ご家族から出されたご意見や相談等を会議の場で報告し、解決に向けて話し合い等も行われている。
③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ご利用者お1人お1人の様子を記載した月1回発行の『希望の郷なかま通信』と、領収書のコピーをご家族へ郵送しており、日頃の暮らしぶりや金銭の報告を行っている。個々の健康状態の報告は適宜、電話で報告したり、ご家族訪問時や定期的なお手紙や介護計画書の説明時等に行っている。ご家族来訪時には、ご意見、ご要望等があれば、職員もしくは管理者に遠慮なく申し付けていただくようお伝えしている。ご家族からのご意見やご要望等は、『伝達ノート』に細かく記録していくことが全職員に徹底されており、職員間でご意見やご要望等の情報を共有し、会議等で対応策を検討している。
④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設してすぐに自治会へ加入されたことで、近所の方々が回覧板を回して下さったり、散歩の途中にホームに寄って下さり、お茶をご一緒していただけることもある。公民館長のお誘いを受け、近くの公園で行われた盆踊り大会へ参加したり、ホームを開催場所として『認知症サポーター養成講座』も開催された。開設してまだ1年も経過していないが、市の職員の方や地域包括支援センターの職員の方、民生委員の方等の協力により、徐々に地域の方々とのつながりができている。今後は、ご利用者が地域の一員として、地域の活動に参加できるよう支援すると共に、近所の保育園・小・中学生等との交流も行っていきたいと考えられている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者(管理者)が『利用者1人1人を個人として尊重し、地域に溶け込み、その人らしく暮らし続けることを支援します』という理念を作りあげた。“尊重、感謝、笑顔、希望、家庭的”と言う介護目標も掲げられ、“ご利用者が住み慣れた地域で暮らすことを大切にしたい”という地域密着型サービスとしての役割を反映させたものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員に対して理念の意識付けを目的として、朝・夕の申し送り時に理念の唱和が行われている。名札の裏には、理念や介護目標が記載された紙が差し込まれており、また、月1回の職員会議の中でも、管理者や主任が理念に通じる話を行い、日々理念を意識しながらケアを行っている。全職員、日々の引き継ぎや現場の中で、ご利用者を尊重した態度や気持ちを持っていて、同じ目線で声かけができていくか等、理念に沿ったケアが実践されているかの振り返りや反省を行っている。	○	職員は、理念の実践に向けて、ご利用者への心配りや声かけ等に、いつも注意しながらケアを行っている。主任は、職員のご利用者への言葉遣いが馴れ合いになることを感じることもあり、『常に目上の方に対する尊敬の念を持って接していくように…』と、日々現場の中で全職員に伝えている。また、笑顔でケアにあたるように心がけているが、業務に追われ、介護目標に掲げている、笑顔で接することができていない時もある。今後も管理者や主任を中心として、さらに職員同士が注意し合いながら理念に沿ったケアに近づいていくことを期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設前の時点から管理者が地域の方々のお宅を訪問して、挨拶を続けてきた。開設してすぐに自治会へ加入されたことで、近所の方が回覧板を回して下さったり、散歩の途中にホームに寄って下さり、お茶をご一緒していただくこともある。みかん等の果物を差し入れて下さる方もおられる。夏には公民館長のお誘いを受け、近くの公園で行われた盆踊り大会へ参加したり、ホームを開催場所として『認知症サポーター養成講座』を開催した際も、民生委員の方が地域の方々に声かけして下さり、約30名の方に参加していただいた。	○	開設されて、まだ1年も経過していないが、市の職員の方や地域包括支援センターの職員の方、民生委員の方等の協力により、徐々に地域の方々とのつながりができてきており、ホームに対する理解も深まりつつある。地域の方々から「この地域にグループホームができたことを歓迎しています。将来が安心です」等の嬉しいお言葉もいただいている。今後は、ご利用者が地域の一員として、地域の活動に参加できるよう支援すると共に、近所の保育園・小・中学生等との交流も行っていきたいと考えられている。さらなる今後の取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、初めての自己評価を行った。まず運営者(管理者)から全職員に対して、評価を行う目的を説明した。全職員に部分的(担当制)に自己評価票を記入してもらったあと、全員で話し合い、1つにまとめた。話し合いの場では、各職員が積極的に意見や考えを出し合うことができ、管理者や主任は各職員の意見の内容からさまざまな考えを持つ職員がいることに気付かされた。また、日頃からケアに関して管理者や主任が指導、アドバイスしている内容が全職員に伝わっていることを実感することができた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者には会議予定の2週間前に議題内容を記載した案内状を郵送している。ご利用者、ご家族、民生委員、地域包括支援センターの職員の方や市の介護保険課の担当者の方等に参加していただき、2か月に1回定期的に開催している。ご利用者からもご意見をいただき、参加者の方々からは、ボランティアの紹介、地域行事の案内、災害時の必要な備蓄品を教えてください等さまざまなご意見をいただき、対応できることから取り組みを行っている。よりご利用者の希望に添ったケアができるよう、サービスの質の向上に活かせるような話し合いが行われている。	○	今後は、近所の方々等にも運営推進会議への参加を呼びかけ、より多くの方から情報をいただきながら、地域連携のあり方などを話し合える場にしていきたいと考えている。今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に管理者の方が月に1回、定期的に市のご担当者の方と話す機会を作っており、ホームの考え方や今後の活動内容についての情報提供等を行っている。ホームが抱える課題や分からないことを、市の担当者や地域包括支援センターの職員に相談すると、回答をファックスして下さったり、ホームへ足を運んで下さり、早期に対応していただくなど、何でも気軽に相談できる関係が築けている。市の職員とともにサービスの質の向上に取り組んでいることを実感している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用するにあたり、地域包括支援センターの職員に協力していただき、1名のご利用者が制度を活用されている。全職員が制度の概要や相談窓口等を把握している。地域包括支援センターの職員からいただいたパンフレットをもとに、管理者が全職員に対して内部研修を行った。また、パンフレットはホームに備え付けており、入居時には全ご利用者やご家族に対して、管理者から制度についての説明を行っている。制度が必要な人にはそれらを活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当の職員が、ご利用者1人1人の様子を記載した月1回発行の『希望の郷なかま通信』と、領収書のコピーをご家族へ郵送しており、日頃の暮らしぶりや金銭の報告を行っている。また、個々の健康状態の報告は必要時には適宜、電話で報告したり、ご家族訪問時や定期的なお手紙や介護計画書の説明時等に行っている。遠方にお住まいのご家族に対しては、電話で報告する時に、直接ご利用者とお話してもらうようにしている。ご利用者の細かな言動等、ご家族へ報告する内容は日々ノートに残していくように全職員が心がけている。	○	ご利用者各々人に合わせた報告を行っているが、管理者や主任はご家族がどのようなことを気にされているのか、また、よりご家族が知りたい内容はどのような内容なのか等の把握に、さらに努めていきたいと考えている。さらなる今後の取り組みに期待していきたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時には、ご意見、ご要望等があれば、職員もしくは管理者に遠慮なく申し付けていただくようにお伝えしている。また、ホーム内には意見箱も設置している。ご家族からのご意見やご要望等は、『伝達ノート』に細かく記録していくことが全職員に徹底されており、職員間でご意見やご要望等の情報を共有し、会議等で対応策を検討している。運営推進会議の議題で取り上げ、出席者から対応策についての助言もいただけている。	○	管理者や主任はご家族の真の思いを汲み取っていきたくており、今後は無記名アンケート等の実施を検討している。また、ご家族としての役割が発揮できるよう『家族会』の組織作りも早期に対応していきたいと考えている。ご家族の意見が反映され、ご利用者、ご家族ともにホームでの生活がさらに暮らしやすい場になるように今後の取り組みに期待していきたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者(管理者)、施設長及び主任は、馴染みの関係の大切さを理解しており、主に運営者(管理者)がケア面での相談や子育て等の仕事以外での相談にも応じている。年に2回程、食事会等も行い、職員の親睦を深めている。職員の休みの希望には極力応じ、調理や夜勤の専門職員も配置し、職場環境を整える等の配慮を行っている。離職時のご利用者へのダメージを防ぐため、その方に応じた説明や、新規職員に対しては先輩職員からの引継ぎを充分に行い、徐々に職場環境に慣れていただき、ご利用者が混乱しないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	運営者(管理者)や施設長は、職員の採用にあたって、性別、年齢、宗教、出自等を理由に、最初から採用から外すということはずせず、病気を理解し、介護できる方を幅広い年齢層の中から採用している。職員が持っている能力や得意なことを発揮していただけるよう、料理、レクリエーション、おやつ作り、服薬管理等、個々の職員に合わせた役割分担を行っている。家庭の事情に合わせた勤務の調整や資格取得のための費用の立て替え等も行い、資格取得やキャリアアップ等の自己実現に向けての支援もを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者(管理者)や施設長は、年長者であるご利用者の人権を尊重し、会議の場等でご利用者の人権について伝え、職員同士が意見交換をし合うことで人権教育、啓発活動に取り組んでいる。また、外部研修に参加した主任は、ご利用者の自尊心を配慮したケアや自己決定をいかに大切に考えていくか、また尊厳を持って接すること等、外部研修で得た人権教育の内容の情報も含めながらホーム内にて全職員を対象に伝達研修を実施した。今後も“人権”に関する理解を深め続けていく予定である。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者(管理者)や施設長は、職員育成が不可欠であることを理解しており、各職員の能力を把握し、段階に応じた内部、外部研修を受ける機会の確保は行っているが、段階に応じた育成計画の作成までには至っていない。外部研修に関しては、運営者(管理者)がその都度声かけをしており、出勤扱いでさまざまな研修に参加していただいている。認知症介護実践者研修に関しては管理者、主任以外の職員にも、順番に受講していただく予定にしている。また、月1回の定期的な内部研修(テーマを決めての発表等)以外にも、資格取得のための助言や参考資料の提供等を行っている。	○	運営者(管理者)や施設長は、研修に参加する必要性を十分理解しているが、各職員の能力に応じた研修計画の作成までは至っていない。今後は、運営者(管理者)や主任を中心として、個人の能力、段階に応じた育成計画の作成を予定している。今後の取り組みに期待していきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者(管理者)や施設長は、同業者との交流・連携の必要性を認識しており、管理者自ら隣市の通所サービス事業所の行事に参加したり、同市のグループホーム職員が集まったの合同研修会(特に現在はセンター方式の取り組み)等へ参加している。また、近隣のグループホームの職員の見学の受け入れや管理者同士の日常的な電話でのやりとりも行われている。隣市にある同法人のグループホームとの合同行事もあり、職員、ご利用者間の交流も盛んに行われている。	○	合同研修会への参加や相互訪問等の活動への参加が、管理者や決まった職員に偏っている。今後は、全職員が同業者の方々と交流する機会を持つことで、ケアに対する視野を広げ、よりサービスの質の向上につなげていけることに期待していきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者が馴染みながらサービスを利用していただけるよう、利用開始前に、管理者や主任が何度か自宅を訪問し、馴染みの関係を作っている。体験入居や体験通所をしていただくこともある。ホームへ見学に来ていただいた際には、見学に合わせて、レクリエーションへ参加していただく等、デイサービスの気分で1日を過ごしていただけるように配慮している。また、既に入居されておられるご利用者の方々に部屋をご案内していただくことで、親近感が持て、不安が軽減して入居の決心がつかれたご利用者もおられた。場合によってはご家族に宿泊していただいたりすることも可能な状態である。また、ご本人が入居を希望されていないため、無理をせず在宅サービスを紹介したケースもあった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	経験豊富なご利用者から料理、野菜の湯がき方、あくの仕方、球根の植え方、草取りの方法等を教えていただいている。また、職員に対して「食事美味しかったよ、気をつけて帰ってね…」等と職員を気遣って下さることも多い。なかなか居室から出てこれないご利用者を心配する等、ご利用者同士でもお互いに気を配る場面も見られている。編み物やミシンかけ等、ご利用者に教えていただく場面を意識して積極的に作っており、これまでに急須敷きやアクリルたわし等を作っていただいたこともある。	○	全職員は、ご利用者の方々と、学び、支えあう関係を深めていくためにも、ご利用者と日常生活を共にすることで、ご家族から伺っている情報以上に、お1人お1人が大切にしてこられたお考え、また、今後どうしていきたいか等の思いをより知りたいと考えている。今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、ご利用者との日々のコミュニケーションや会話の中から、「どのようにしたい…こうしたい…」という、ご利用者の思いや意向を把握するように努めている。全ご利用者が、ホームでどのように暮らしていきたいのかを把握し、1つ1つの生活行為についても、どの部分を介助してもらいたいと思われているのか等を把握しながら介助を行っている。意思表示が困難なご利用者に対しても、ご家族から話を伺い、お1人お1人と向き合い、一緒に行動することで、思いを汲み取る努力を続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在、センター方式を活用しながらのアセスメントに力を入れており、課題、目標の欄には、『その人らしく暮らし続ける』ための個別具体的な課題や目標が記載されている。『ご利用者自身の介護計画』という視点で、ご利用者やご家族に、とても分かりやすい表現になっている。ご利用者、ご家族と話し合い、かかりつけ医や地域包括支援センターの職員等のご意見や気付きを反映させた介護計画にもなっている。『地域で暮らす』という視点も盛り込まれており、ご利用者ごとの介護手順書に基づき、ケアが行われている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別処遇実施記録と経過記録に記入していくことで、ご利用者の日頃の様子や状態の変化を把握できている。ご利用者、ご家族、必要な関係者の方々と話し合いながら、月に1回の職員会議で問題点の確認の検討が行われている。状態に変化が見られた場合や新たな気付きやご意見が出された時は、それらを介護計画に反映させるために、臨機応変な計画の見直しも行われている。現状に即した計画を作成していくためにも、全職員で、ご利用者のわずかな状態変化や気付きを詳細に記録に残すように心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の要望に応じて、ご家族の協力もいただきながら、個別のご希望に合わせた買い物やドライブ、ホーム周辺の散歩等の外出支援を行っている。また、ご利用者が入院した際には、職員がお見舞いに行き、病院の看護師に状態の経過をお聞きしたりしている。協力医療機関の往診の医師が、24時間電話等の対応を下さっており、状況によっては、夜間の急変時等に電話で相談すると、他の病院を紹介して下さることもあり、医療連携体制も整っている。独居の方で自宅で飼っていた犬を連れて一緒に入居する等、ホームの多機能性を活かした柔軟な取り組みを続けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ご利用者、ご家族の希望を重視し、希望される医療機関にて受診されている。1名を除いては往診の医師で受診されており、親しみやすく、ご利用者の方々からの信頼も厚く、何でも相談できる医師である。また、夜間緊急時も電話にて24時間体制の対応ができるようになっている。個別のかかりつけ医での受診を希望されているご利用者の通院介助はご家族に依頼しているが、受診後の状態については、ご家族から報告をいただき、ご利用者の状態の把握に努めている。受診後、ご利用者に状態の変化のあった場合は速やかに報告し、変化がない場合でも来訪時やお電話にて、ご家族へ報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたホームとしての方針の話し合いを、ご家族や往診の医師等と行ったが、方針共有にまでは至っていない。運営者(管理者)、施設長、主任等は終末期の対応についての必要性を感じ、ご利用者が望む生活を応援していきたいと考えているが、終末期に対してのホームの状況や職員の体制などが整っていない状況である。できることと、できないことを見極めながら、往診の医師とともにチームとしての支援に取り組む準備を行っている。	○	今後、運営者(管理者)や施設長、主任等は、ご利用者が望む生活を続けていただくためにも、終末期に対する方針を検討していきたいと考えている。ホームとしての終末期ケアの実施に向けての取り組みは、ご利用者、ご家族の意向と合わせて、往診の医師や職員、各関係者の方々の話し合いの場を持つ等の連携や協力が必要と考えられる。まずは各関係者の方々と終末期に向けた方針を共有していくための話し合いの場が持てるようになることを期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者が全職員に対して、個人情報に関する内容を入社時に説明したり、定期的に内部研修を行っている。職員はその内容を理解し、全職員が誓約書へサインをし、徹底できるよう取り組みを継続している。方言を使ってご利用者とお話することもあるが、目上の方に対する尊敬の念は常に持っており、馴れ合いにならないように気をつけている。また、失禁時には他のご利用者の目にふれないようにトイレへさりげなく誘導したり、入浴時の羞恥心の配慮等、ご利用者を不快にさせないケアに努めている。日頃から個人情報の取り扱い、書類の管理含め、全職員がご利用者のプライバシーを損ねるような対応をしないことを実践している。	○	全職員は、特に申し送り時等、ご利用者の前で個人情報に関する話をしないよう、お互いに注意しあっているが、それを今後も継続し、常に意識して情報の漏洩防止に取り組んでいきたいと考えている。また個人名が書かれた面会名簿が第三者にいつでも見える状態でもあったため、来訪されるご家族や各関係者の方々への配慮を考え、検討される等の取り組みに期待していきたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ご利用者に対して無理強いをすることなく、ご利用者が望まれることのできる限り応じるようにしている。ご自分の意見をしっかりと伝えて下さるご利用者が多く、ご希望があった時には、可能な限り対応し、満足していただいている。「犬の散歩へ行きたい」等と希望を言って下さる方や、料理、配膳等、自主的に動いて下さるご利用者も多い。ご利用者のペースでご自身が納得されるまでゆっくり最後まで行動していただくようにしている。センター方式を導入し、24時間の行動を把握することで、行動の背景にある、ご本人のお気持ちを考えさせていただく場面もあり、実際に、同じ行動を繰り返される原因の把握ができたこともあった。	○	「どのように過ごしたい」という、ご希望を表わしていただくことが困難なご利用者に対して、管理者や主任は、同市の他のグループホーム職員が集まる合同研修会等で、事例検討や話し合い等にて情報収集を行っている。その情報収集の内容を活かし、事例検討内容から学んだケアを実践していきたいと考えている。また、全職員が、よりご利用者の自己決定を促していけるような支援を続けていきたいとも考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にも、フライパンで炒め物をしていただいたり、お茶を汲んでいたたり、サンドイッチにバターを塗っていただく等、お1人お1人のお力を発揮していただいている。郷土食でもある『筑前煮』『団子汁』等は好評で、定期的に採り入れている。月に1回は車3台を出し、全ご利用者をお連れして、中華料理やファミリーレストラン等へ外食している。誕生日には、ご本人に食べたい物の希望を伺ったり、ホットケーキ、蒸しパン、プリン等のおやつ作りを、ご利用者と一緒になって実施している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は週3回(10:30~15:00)を基本としているが、身体が汚れた時やご利用者が希望される時は、入浴日以外にも入浴をしていただいている。入浴を好まれないご利用者には、入浴時間をずらして対応したり、「お風呂に入って気持ちがよかった」ということを他のご利用者からお声かけしていただく等の工夫を行っている。羞恥心に配慮し、同性介助を徹底しており、原則1人ずつ入浴していただいている。橙風呂や菖蒲湯等も取り入れ、入浴を楽しんでいただくよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方々が、これまで培ってこられたお力を発揮できるよう、建物周辺の掃除、リビングや手すりの掃除、草花の水遣り、犬の餌やり、洗濯物干し等の役割を担っていただいている。また、皆でテーブルを囲んでカラオケやパズルを楽しまれたり、毎日希望者を募り、夕方には職員とともに、ご利用者の入居に伴い、一緒にホームで暮らしている犬の散歩へお出かけしている。また、達成感を味わっていただくためにも、毎日行っているレクリエーションの内容に力を入れていきたい…と、レクリエーション担当職員を中心に全職員で考えている。	○	レクリエーション担当職員を中心に、これまでの経験をもとに知恵を出し合いながら、本やインターネットにて、どのようなリハビリがあるかを調べている。歯科医と連携を図りながら、口腔体操や嚥下体操等の話を進めていく予定である。ご利用者が楽しいと思える生活が続けられるよう、レクリエーションの充実のためのさらなる取り組みに期待したい。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者や職員は、ご利用者の方々に思う存分、外の空気を吸っていただきたい…と外出の大切さも十分に理解しており、ホームをご利用になられる前からご利用者が日課とされていた犬の散歩や、ご家族との買い物などを続けていただいている。またホームの外出行事として、ドライブを兼ねたお食事やご家族との日用品の買い物等で気分転換を図っていただき、できる限りご利用者のご希望に添った外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解し、夜の防犯上の施錠以外の時間帯(朝7時から夜6時半まで)は玄関は開放されており、自由に出入りできる状態にしている。ご利用者の安全確認については、職員が業務する場所等、見守りの位置を工夫したり、職員同士が業務中に声かけを行い、徹底した見守りを行っている。また玄関にはセンサーを設置しているが、センター方式の活用によるご利用者の行動の把握に力を入れており、チャイムに頼らないケアに取り組む姿勢も持っている。ご利用者1人での外出時のために、自治会長や民生委員、近所の方々にも外出時の連絡の協力を依頼している。また、迷子になられた時のことを考え、写真入りの資料も準備されている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、その日勤務の職員とご利用者の参加のもと、火災を想定した避難訓練を行っている。月に1回、避難訓練をこまめに実施することで、いざという時に慌てずに対応できる準備を行っている。災害時には、緊急連絡システムで連絡要請ができるようになっているが、実際に消防署の方や災害時の協力依頼を行っている地域の方々の参加による避難訓練等ができておらず、今後は消防署の方や地域の方々も含めた避難訓練実施を検討している。また、災害時に備え、ラジオ、懐中電灯、水、乾麺等を準備しており、個人用の救急袋にはバスタオル、ティッシュ、紙おむつなど準備している。	○	運営者(管理者)、施設長及び主任は、地域の方々や消防署の方々へ避難訓練の参加をお願いし、より多くの協力者を含めての避難訓練を行っていきたくと考えている。また、昼間想定火災避難訓練のみならず、夜間想定火災避難訓練や地震を想定した訓練等の検討も行っている。今後は、消防署の方や協力依頼を行っている地域の方々の協力のもと、避難訓練が実施されていくことに期待していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みを把握し、献立の中に盛り込んでいる。梅干しやふりかけ等の嗜好品を個別にそろえたり、体調に合わせながら、調理方法や味付けを変える等の対応も行っている。献立係が決まった期間の献立を立て、管理栄養士でもある管理者が、栄養バランスや1人1人に合わせたカロリー等のチェックを行っている。また、定期的な体重測定により、体重の把握もできており、血液検査の結果に基づいた医師からの助言も得ることができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節感が感じられる塗り絵等の作品を掲示している。また、リビングの脇には畳敷きの和室を設けており、職員の見守りのもと、のんびりとタバコを吸う等、ご利用者が思い思いに過ごしていただける場所となっている。天窗からの自然の光がお部屋を明るくしており、空気のよどみがないように、24時間換気システムも導入されている。歩行器や押し車を使用しても移動しやすい広さが確保されており、リビングにはご利用者からのリクエストにお応えして、曲を流す等、和やかに過ごすことができるように工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が落ちついた生活が継続できることを目指し、環境整備には全職員が力を入れている。入居時には、ご利用者やご家族と相談して、これまで長年自宅で使用してこられた布団やタンス、テレビ等を持ってきていただいている。また、ご利用者の趣味でもある魚拓や楽器(三味線等)、ご自分で作られた作品類等も持ってきていただいている。ご利用者が居心地よく、自由にプライベートな時間が過ごせるように配慮している。		